

# 化粧 生きがい広げる

## 専門学校生 施設利用者に美容活動



デイサービスの利用者に化粧の実習をする専門学校生（横浜市のヒューマンライフケア新横浜で）

「前の反省会で、相手の好みに合わせた色遣いをしよう、会話が途切れないようにしよう」と話し合った。次も出たい」と意欲的だった。

介護施設での実習に対し、横浜校の学務責任者、野町真矢さんは「一定の技術があると判断した学生に、授業時間の中で参加させている。高齢者どうう会話するか、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力の向上にもつながる」と、教育効果も説く。ヒューマンアカデミーでは、札幌、名古屋、大阪、広島、福岡などでも生徒が同様の実習経験を重ねている。

### ■雲開き明るく

ボランティアで活動する学生の取り組みもある。山野美容専門学校（東京・代々木）では、美容福祉コースの生徒のうちの5人が昨年暮れ、都内のデイサービスを訪問し、初めてネイルカラーとハンドマッサージを行った。

「美容福祉」は今年度から新設されたコースで、ホームヘルパー2級の養成研修課程修了の資格も取得できる。高校時代に介護施設でボランティアを経験したという阿部恵美さん（19）は「その施設では、美容師が来れば、普段は重い空気が明るくなった。当時から自分が役に立ちたいと考

えていた」と動機を話す。大茂愛さん（19）も「将来、就職しても定休日などにはボランティアで続けたい」と答えた。

日本美容福祉学会では「美容福祉師」の資格を認定している。高齢者や障害者に対応できる知識と技術を持った美容師を養成しようというわけだ。

施設内での取り組みに詳しい文京学院大教授で、障害者施設の理事長も務める綿祐二さんは「美容を通して若い学生と交流すれば高齢者の生きがいにもつながる」と分析。「化粧なんて今さらという利用者もいるが、介護現場が少しでも明るくなるような支援は大切だ。高齢者にも化粧が文化として生活に根付くなら、それも非常に意義がある」と評価している。

ヘアメイクアーティストなどを目指す若者たちが高齢者福祉施設を訪れ、利用者にメイクなどをする活動が広がっている。授業の一環に取り入れる専門学校も出てきた。（内田健司、写真も）

### ■貴重な実習

横浜市港北区の住宅街の一角にあるデイサービス「ヒューマンライフケア新横浜」に昨年12月半ばは、化粧道具を持った20歳前後の若者8人が集まってきた。系列の「ヒューマンアカデミー」横浜校で、服飾などを学ぶ専門学校生たちだ。

この施設は昨年9月に開業したばかりで、「ネイル&メイク」は2度目のイベント。学生たちがお年寄り

のメイクを始めると、その表情が緩んで会話も自然に弾む。利用者の栗原佐智子さん（82）は「若い人の肌なえられいではないけれど、ねえ」とほほ笑んでいた。施設管理者の伊藤浩一さん（28）も「利用者が若々しくなり、活動も活発になるなど非常に効果的だ」と手応えを感じているようだ。

実習は学生にとっても貴重な経験。初めて参加した川島由貴さん（18）は「年配者の化粧をしたことはなく、感覚がわからなかった。でも、喜んでもらえてとてもよかった」と満足そう。新庄美香さん（23）は初回のイベントも参加しており、

◆日本美容福祉学会（山野美容専門学校内、☎03-3379-0111、<http://www.bwgakkai.gr.jp/>）

◆ヒューマンライフケア（☎0120-47-0294、<http://hle.resocia.jp/>）